

VI. 未来への伝承・架け橋 プロジェクトの概要と実績

1 プロジェクトの概要と実績

「未来への伝承・架け橋プロジェクト」は、時間の経過とともに被災の記憶が風化する懸念があることや、また、これまで全国からのご支援により復興が進み、その成果について全国の皆様に報告し感謝の意を伝える必要もあるため、東日本大震災発生時からの復旧復興の経緯と成果について、イベントを含めより効果的かつ積極的に発信するプロジェクトとして平成24年度下半期から開始した。プロジェクトとして活動している内容は以下のとおりである。

- (1) 「みやぎの農業農村復旧・復興パネル展」の開催
- (2) 地方自治法派遣の派遣元の都道府県における復旧復興セミナーの実施
- (3) 大学等教育機関との連携による出前講座の実施

(1) 「みやぎの農業農村復旧・復興パネル展」の開催

1) 全国リレー展

- ・地方自治法による職員派遣を実施している全国28都道府県と連携し、各都道府県において『みやぎの農業農村の復旧復興パネル展 全国リレー展』と銘打ち、派遣職員の皆さんの活躍状況をパネルにして派遣元の都道府県民および都道府県職員にお知らせするもの。
- ・開催都道府県の希望によりパネル展開催時に「パネル伝達式」を実施し、イベントの注目度をあげた。

H24年度全国で20カ所開催（うちリレー展11カ所）

H25年度全国で30カ所開催（うちリレー展16カ所）

H26年度全国で21カ所開催（うちリレー展15カ所）

H27年度全国で28カ所開催（うちリレー展16カ所）

H28年度全国で22カ所開催（うちリレー展15カ所）見込み

2) その他のパネル展示

- ・全国リレー展とは別に、より多くの国民がパネル展をご覧いただけるよう、被災状況、応急対応、復旧復興状況等のパネルを展示
- ・県外だと農林水産省「消費者の部屋」や復興庁、東京スカイツリーなどで開催した。
- ・仙台市内では七夕まつりや宮城県図書館等でパネルを展示した。
- ・パネル展示の際に応援メッセージをポスターに書き込む募集をし、宮城県民に全国の皆さんからの応援メッセージについて周知した。



▲写真 パネル展の様子（H25年10月）
農林水産省「消費者の部屋」 大臣視察状況



▲写真 パネル展開催の様子（東京スカイツリー）
（H25年4月）

(2) 「2014 みやぎの農業農村復旧復興シンポジウム」

平成 26 年 2 月 6 日仙台市エレクトロンホールで「2014 みやぎの農業農村復旧復興シンポジウム」, 7 日には現地調査が開催された。シンポジウムは「東京エレクトロンホール宮城」に約 1, 000 人の参加者を迎え, 第 1 部は宮城復興局, 東北農政局, 農林水産部の職員 4 名から復旧復興状況報告を行い, 第 2 部は知事をパネリストにしたパネルディスカッションを行った。

パネルディスカッションでは, 土地改良制度を活用したまちづくりと競争力のある農業経営体との育成をテーマとして, 知事が「県内の農業が高齢化や担い手不足で集落機能が弱くなっている状況であるが, 被災地で収益性の高い農業に思い切って転換して日本農業のモデルになろう」と会場の参加者へ呼びかけをした。



▲写真 シンポジウムの様子

(3) 第 3 回国連防災世界会議

「東日本大震災を踏まえた防災・減災に資する農業・農村の強靱化シンポジウム」

平成 27 年 3 月 14 日～18 日仙台市で開催された第 3 回国連防災世界会議において関連事業として, 「東日本大震災を踏まえた防災・減災に資する農業・農村の強靱化シンポジウム」を開催した。また, 仙台市民会館ではパブリック・フォーラム防災・復興に関する展示として「東日本大震災(東北地方太平洋沖地震)農地・農業用施設等の復旧・復興状況」について東北農政局, 宮城県, 仙台市, 農村工学研究所, 水土里ネットみやぎが協賛し実施した。



▲写真 シンポジウム(左)及びパネル展示(右)の様子

(4) 自治法派遣の派遣元の都道府県における復旧復興セミナーの実施

地方自治法による宮城県へ派遣されている農業農村整備関係職員は, 平成 25 年度においてピーク時に 28 都道府県 68 名にのぼる。宮城県の復旧・復興の状況報告並びに, 派遣職員の方々及び派遣に際しご尽力いただいた皆さまへの感謝を伝えることを目的に毎年各希望道県で開催。

農地復旧状況 ～石巻市大川地区～ 平成28年 営農状況

◎平成28年作付け状況

大川地区では413haの農地復旧を予定しており、針岡工区175haは平成26年に全面営農再開しましたが、長面工区238haは平成26・27年の2年間で試験作付けを行い、塩害の影響がないことが確認されたことから、用排水施設整備が完了したことから、中央部の78haで営農再開しました。現在、大川地区全農地の約6割にあたる253haで作付けが可能となりました。



干陸化のため排水中の農地

表土等仮置

営農再開した農地

長面工区締切堤防上空から北上川河口を望む、干陸化後初めて作付けされた農地と干陸化のため排水中の農地(平成28年8月)
右下:長面工区稲刈り状況(平成28年10月)

◎平成27年作付け状況

長面工区では平成27年度水稲と大豆を試験作付けを行い、試験研究機関等と連携し復旧農地における塩害対策等の課題を抽出しました。



長面工区大豆の刈取り(平成27年12月)

長面工区大豆の生育(平成27年9月)

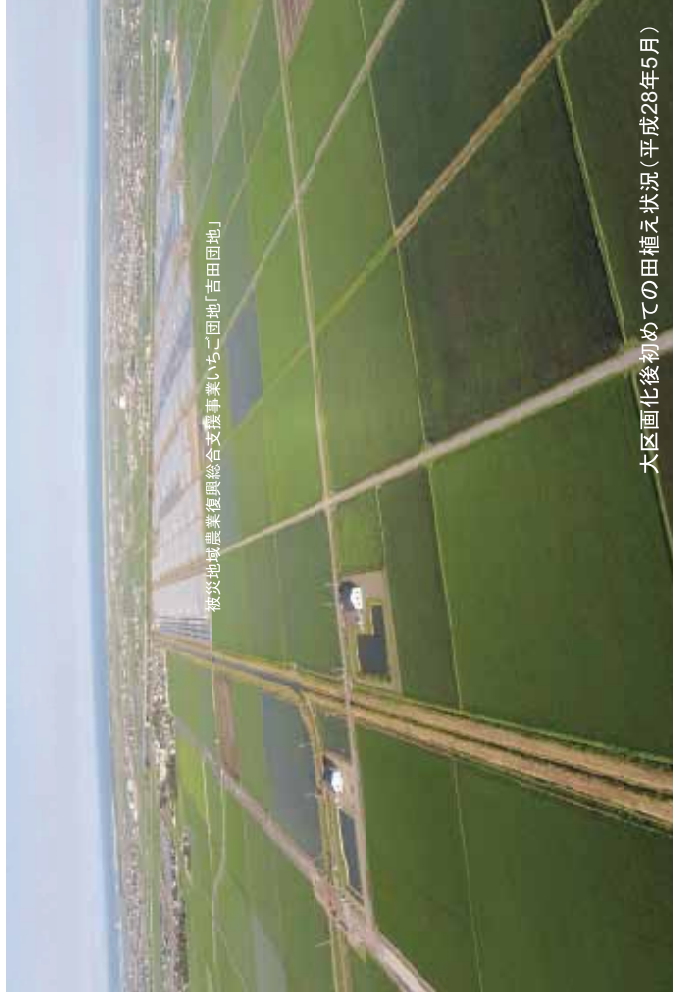


「皆さんの応援に感謝！」
ただ今農業農村の復旧・復興に全力を尽くしています！

農地復旧状況 ～亶理町吉田南部地区～ 平成28年 大区画ほ場で営農開始



東日本大震災により甚大な被害を受けた農地において、農山漁村地域の復興を目的として、農地等の生産基盤整備のため、復興交付金を活用した農山村漁村地域復興基盤総合整備事業を実施しています。事業の実施により、区画形状の拡大、農地の面的な集積、経営の大規模化・高付加価値化を行い、収益性の高い農業経営の実現を目指します。



被災地域農業復興総合支援事業いちご団地「吉田団地」

大区画化後初めての田植え状況(平成28年5月)



被災状況(平成23年3月)

ガレキ撤去状況

スケルトンバックホーによる雑物除去状況



「皆さんの応援に感謝！」
ただ今農業農村の復旧・復興に全力を尽くしています！

農地復旧状況 ～南三陸町南三陸地区～ 平成28年 営農状況



位置図

在郷工区田植え(平成28年5月)



西戸川工区ねぎ作付け(平成28年3月)

西戸川工区田植え(平成28年5月)

宮城県南三陸町では、復興交付金を活用した農地整備工事を1地区・6工区で進められており、平成27年春から順次営農を再開しています。
このほ場整備をきっかけに営農組合等が設立され、生産基盤の整備と併せて復興交付金により営農機械の導入や、農業改良普及センターによる営農指導等により営農体制の整備を図っています。



農地復旧前(平成28年11月)



農地復旧完了(平成28年2月)



「皆さんの応援に感謝！」
ただ今農業農村の復旧・復興に全力を尽くしています！

農地復旧状況 ～東松島市奥松島地区～



東日本大震災からの地域復興に向けて、単なる復旧にとどまらず、農地の大区画化や、用排水路・農道等を総合的に整備するなど、復興交付金の農地整備事業により、生産性の高い農地に基盤整備するものとともに、農地集積による担い手の経営規模の拡大を図り、競争力のある農業の実現を図るため農地復旧と一体的に区画整理を行っています。



洲崎排水機場

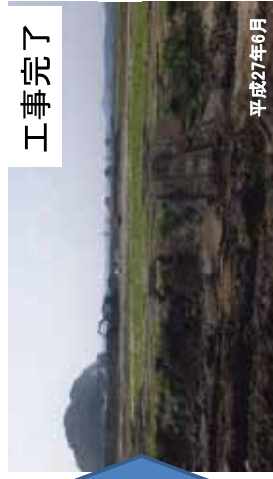
位置図

奥松島地区干陸化後の本格的な営農再開(平成28年8月)
右下:洲崎・東名工区稲刈り状況(平成28年10月)

被災直後



平成28年7月



工事完了

平成27年6月

奥松島地区の津波による被災と農地復旧状況



「皆さんの応援に感謝！」
ただ今農業農村の復旧・復興に全力を尽くしています！